

# フォト とちぎ

2014  
冬

特集 **ねんりんピック栃木 2014 今秋開催**

**とちぎの地芝居** (佐野市・茂木町ほか)  
**とちぎの景勝百選 雪景色**

**とちぎアーカイブ 回覧**

**日本で一番美しい村** (那珂川町小砂)

**スカイベリー**

表紙 **日光杉並木街道** (日光市)  
日光杉並木街道写真展入賞作品  
撮影・浅見 清さん

# ねんりんピック栃木 2014

## 咲かせよう！ 長寿の花を 栃木路で



### サッカー (宇都宮市・壬生町)

サッカーは、県総合運動公園と河内総合運動公園、壬生町総合公園の3会場で開催。「こうち大会」では栃木県チームがBブロックで準優勝。今年は開催県なので2チーム出場でき、優勝への期待が高まります



### ゲートボール (佐野市)

ゲートボールは、日本生まれのスポーツです。もともと子どもたちへの普及を目的にしましたが、その手軽さから高齢者に適したスポーツとして広まりました。現在では、ゲートボール人口は国内で190万人、世界では1000万人とも言われています。栃木大会には全国から約2000人の選手が参加予定です



### 碁 (下野市)

碁は、逆転が多い競技で、終盤になるまで勝敗がわからないのが醍醐味。すぐに誰でも楽しめる競技なので、出場目指して今から始めてみてはいかがでしょうか



「ねんりんピック栃木2014」が10月4日から7日まで、栃木県内20市町で、開催されます。会場では、全国から集まった選手たちが、日ごろ鍛えた技を競い合い、趣味談義に花を咲かせながら、交流を深めます。種目はあわせて24種目。昨年の「こうち大会」では12種目で栃木県選手団が入賞。「とちぎ大会」でも活躍が期待されています。また、60歳以上だけでなく、年齢制限がない種目もあり、世代を超えて交流できます。ねんりんピックは、すべての人が参加して楽しめる「元気の祭典」です。



10月  
4日(土)~7日(火)

# 今秋 開催



**卓球 (鹿沼市)**  
直径44ミリのラージボールを使う「新卓球」のルールで競技します



**テニス (栃木市)**  
「こうち大会」では栃木県の「チーム・プロスト」が優勝しました



**太極拳 (宇都宮市)**  
6〜7人の集団演武で、チーム対抗の競技を行います。競技種目は24式太極拳(競技用に統一された太極拳の様式)を4分以内に構成し、参加チームが準備した音楽で演武します



**水泳 (小山市)**

水泳の個人競技は、60〜64歳、65〜69歳、70〜74歳、75〜79歳、80歳以上の5クラスでタイムを競います



**健康のため  
40歳からプール通い**

こうち大会  
水泳・背泳ぎ (65-69歳) 準優勝  
久保 治夫 さん (68・宇都宮市)

学生時代水泳の経験がある久保治夫さんが、再び水泳を始めたのは40歳になってから。健康づくりのため、週2回プールに通い、1時間ほど泳ぐという日々。以来、今日までプール通いを続けています。ねんりんピックは「こうち大会」が2回目。昨年秋に小山市で開かれたリハーサル大会(栃木県マスターズ)では2つの大会新を記録しました。久保さんは現在「スウィン宇都宮スイミングスクール」でトレーニングを続けながら「宇都宮メック」の仲間とともに、全国各地の大会にも参加しています。そこでの水泳仲間との交流が何よりの楽しみ。「今まで続けてこられたことに対し関係者に感謝します」と言っています。

**優勝ねんりんピック競技スポーツ**  
昨年は9チーム10人が入賞

昨年10月に開催された「こうち大会」(ねんりんピックよさこい高知2013)では栃木県から出場した9チーム、10人が入賞しました。なかでも最も多いのが水泳。久保治夫さん(宇都宮市)をはじめ5人が3位以内に入賞しています。このほかにもマラソンでは、高山道雄さん(鹿沼市)と、山本忠之さん(日光市)がともに部門優勝。テニス、太極拳も優勝。栃木県選手団の実力を全国に示しました。「とちぎ大会」(ねんりんピック栃木2014)でも、栃木県選手団の活躍が期待されています。



### ウォークラリー (那須町)

ウォークラリーにも年齢制限がない「一般」部門があります。那須高原の特設コースで開催予定で、色鮮やかに紅葉した那須連山を歩きながら高原ならではの豊かな自然が体感できます



**俳句** (那須烏山市)  
「募集包」は高齢者部門と一般部門があります。高齢者部門は60歳以上ですが、一般部門は60歳未満が対象になります。また、「当日参加」は、年齢制限がありません。当日参加もできます



### マラソン (真岡市)

井頭公園とその周辺を走るコースです。3<sup>km</sup>、5<sup>km</sup>、10<sup>km</sup>の各コースがあります。60歳以上の「高齢者」と小学1年生以上の「一般」の2部門があり、家族ぐるみでの参加もできます



### 家の回りを毎日 20<sup>分</sup>

こうち大会  
マラソン (70歳以上5km) 優勝  
高山 道雄 さん(73歳・鹿沼市)

マラソンを始めたのは中学生の頃。高山さんは聴覚障害があり、県立聾学校に通学していました。体育の時間や運動会での徒競走ではいつも1位。先生からマラソンを勧められました。同校の高等部に進学し、3年生の時にチームを作って県の高校生駅伝に出場しました。結果は最下位でしたが、ほかの高校生と一緒に走れたことの感動を今でも忘れません。社会人になってもマラソンを続け、25歳の時、ワシントンで開かれた国際ろう者競技大会(現在のデフリンピック)に出場し、銅メダルを獲得しました。現在は「栃の葉国体記念健康マラソン」に毎年出場しているほか、県内外で開かれている数々の大会にも個人や「いきいきクラブ」の仲間とともに参加しています。体力・健康づくりのため、家の周辺をその日の体調にあわせて毎日15～20<sup>分</sup>、楽しく走ることを日課にしています。

ねんりんピックは、60歳以上の人が主人公ですが、高齢者だけでなくあらゆる世代の人が交流し、楽しめる大会を目指しています。競技の中には、年齢制限を設けずに、すべての人が参加できる部門もあります。マラソン、ウォークラリー、俳句は、それぞれ60歳以下の「一般部門」を設けています。(詳細は未定)。また俳句は、当日参加(年齢制限なし)も可能です。

世代を超えて楽しく交流  
年齢制限なしの部門も

# 交流大会の種目と会場

## ふれあいスポーツ交流大会

ウォークラリー 那須町	ソフトバレーボール さくら市	
ターゲット・ハードゴルフ 市貝町	インディアカ 宇都宮市	
グラウンド・ゴルフ 矢板市	なぎなた 益子町	太極拳 宇都宮市
サッカー 宇都宮市 壬生町	水泳 小山市	ダンススポーツ 大田原市

## スポーツ交流大会

テニス 栃木市	ソフトテニス 那須塩原市
ゴルフ 日光市	マラソン 真岡市
ソフトボール 足利市	ゲートボール 佐野市
弓道 宇都宮市	剣道 小山市
卓球 鹿沼市	ベタンク 高根沢町

## 文化交流大会

囲碁 下野市	将棋 茂木町
俳句 那須烏山市	健康マージャン 宇都宮市

## とちぎ大会スケジュール

会場	10月4日(土)		10月5日(日)		10月6日(月)		10月7日(火)	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
栃木県総合運動公園	総合開会式 ふれあい広場							
交流大会会場 (14市6町)			スポーツ交流大会・ふれあいスポーツ交流大会 文化交流大会(全24種目)・健康づくり教室					
マロニエプラザ	ふれあいニュースポーツ・健康フェア・相談コーナー・健康福祉機器展 ・ふれあい広場・オリジナルイベント・併催イベント・協賛イベント							
栃木県庁	地域文化伝承館・オリジナルイベント							
栃木県総合文化センター	美術展							
	ファッションショー		音楽文化祭		シンポジウム		総合開会式	



地域のボランティアによるおもてなし



ふれあい広場

みんなで参加  
できる楽しい  
イベント



健康福祉機器展



健康づくり教室



美術展



地域文化伝承館



音楽文化祭

地域に受け継がれる

# とちぎの地芝居

江戸末期から明治の初期にかけて、歌舞伎の地方巡業が盛んでした。歌舞伎役者から教わった演目を、地域の農民たちが自ら演じようと、一座をつくりました。農作業が一段落した秋の終わり、祭礼の奉納行事として上演し楽しんでいました。娯楽が少なかったことを背景に素人による「地芝居」は広く地方の農村に浸透してゆきました。栃木県内にも、最盛期には30以上もあったそうです。大戦を機に、ひとつ消え、ふたつ消え、しばらくの間上演されることはありませんでした。こうしたなか1981年、郷土の伝統芸能を守り次の代に受け継ごうと旧葛生町の青年たちが「牧歌舞伎保存会」を結成。86年には茂木町に「飯野歌舞伎会」が発足しました。地域の人たちの熱い思いが復活公演を成功させ、いまも各地で上演しているほか、子どもたちを指導するなど、伝承にも力を注いでいます。



常盤中学校の生徒たちに歌舞伎を指導する牧歌舞伎保存会



くず原まつりで「白浪五人男」を演じる常盤中学校の生徒たち

佐野市北部（旧葛生町）の牧地区に江戸時代から伝わる農村歌舞伎です。江戸歌舞伎の関三郎を師とする役者が旧田沼町に住んでいて、牧地区で農民芝居を楽しんでいた人たちが指導したのが始まりと伝えられています。盛んだったのは1935年頃まで。牧不動尊の春と秋の縁日に上演していました。戦後、途絶えそうになりましたが、伝統の灯が消えないうちに、記録映画を制作したことをきっかけに1981年に牧歌舞伎保存会を結成。現在では、2年に1度の定期公演のほか、イベントなどで上演。地元常盤中学校の生徒たちに指導するなど、伝承に努めています。（栃木県無形文化財）

## 牧歌舞伎

（佐野市）

牧歌舞伎保存会は2012年、結成30周年を迎えました。現在は、2年に1度定期公演を行っています。上演に先立って、口上を述べる牧歌舞伎保存会。





**松本歌舞伎（益子町）** 益子町山本地区では、「松本歌舞伎舞台」が地域の人たちによって受け継がれています。これは松本三ノ宮神社境内で行われる郷土芸能の舞台。始まりは江戸時代後期と伝えられています。歌舞伎舞台背景襖絵（益子町指定文化財）が遺されていることから、かつては歌舞伎が演じられていたようです。舞台公演は、しばらく途絶えていましたが2003年、地元自治会により50年ぶりに復活。現在では4年に一度、自治会の人たちが舞台を設営し、郷土芸能を披露しています。



茂木町東部にある飯野地区に伝わる地芝居「飯野歌舞伎」が始まったのは、明治時代の中頃です。飯野地区で農業を営む渡辺松太郎翁が、隣の茨城県下館で公演していた市川延十郎という歌舞伎役者から習って、近所の農家の人と「大都座」を結成し、演じたのが発端と伝えられています。「大都座」の評判は瞬く間に広まり、地元のお祭りだけでなく近隣の村にも出かけ公演していました。大正期にはもうひとつの「旭座」が旗揚げ、飯野歌舞伎は全盛期を迎えます。戦争のため一座は解散。新たに「都座」「大都座」旗揚げなど盛衰を繰り返し、1966年の公演を最後に途絶えていました。しかし1986年、渡辺松太郎さんの孫で「大都座」の座元でもあった高橋正元さんの指導で、地元のお雛子保存会を中心に練習を開始。同年11月には、飯野小学校の講堂で復活公演を成功させました。現在は地域のイベントなどで上演するほか地元の小学校で指導を続けています。

**飯野歌舞伎**

（茂木町）



那須烏山市に伝わる「山あげ祭」（重要無形民俗文化財）でも地元の人たちによる歌舞伎舞踊が披露されています。「山あげ祭」は、1560年に八雲神社の祭礼の余興として行われたのが始まりです。祭礼には、奉納余興として相撲や神楽獅子などが行われていましたが、やがて常磐津を取り入れるようになり、宇都宮や常陸大宮から踊り手を招いて余興を催していたそうです。現在は毎年7月、烏山山あげ保存会の芸能部の人たちにより「将門」「辰橋」などの歌舞伎舞踊が演じられています。

**山あげ祭**

（那須烏山市）





**神橋と大谷川 (日光市)**  
華厳の滝から流れ落ちる清く、青い大谷川の流れに影を落とす「神橋」。冬は、雪の白さが朱色を鮮やかに引き立てます。

### 星野遺跡 (栃木市)

栃木市の北部、永野川沿いの大地にある星野遺跡は、縄文時代の遺物が数多く発掘されています。星野遺跡の森(公園)には、縄文時代の住居などが復元され、自由に見ることができます。



撮影：櫻井宣英さん (那須塩原市)

### スukkan 沢 (那須塩原市)

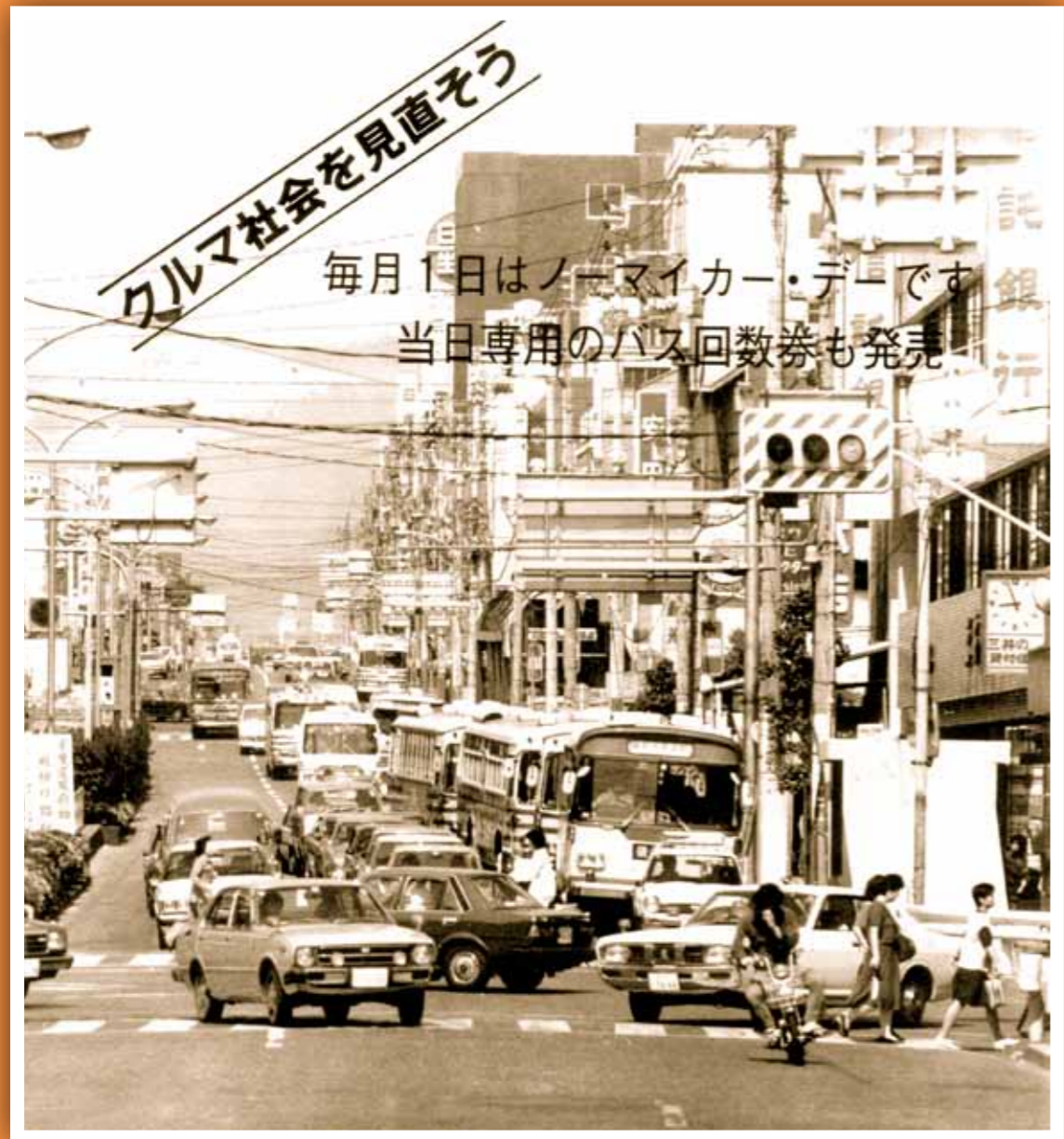
那須塩原市の塩原温泉から南に約6km、矢板市との境界近くに美しい渓谷「スukkan 沢」があります。スukkan 沢は、高原山を水源とする沢で、塩原温泉で箒川に合流。酸っぱい味がするのでこの名がついたとも言われています。沢の近くは断崖が多く、流れ落ちる水が「素簾(それん)の滝」「仁三郎の滝」「雄飛の滝」など美しい景観を創り出しています。景観は初夏の緑、秋の紅葉だけでなく、凍てつくような冬風景もまた美しいです。春から秋にかけては県道56号で「雄飛(ゆうひ)橋」近くにある駐車場まで乗用車で行けますが、冬季は車両通行止めになっています。また、雄飛橋から「山の駅たかはら」まで、スukkan 沢に沿って遊歩道が整備されていますが、現在、スukkan 沢から先が一部通行止めになっていますので注意が必要です。





団樂

1987年2月号より



**クルマ社会を見直そう**

毎月一日はノーマイカー・デーです当日専用バス回数券も発売。写真は、通勤のマイカーなどで渋滞する宇都宮市内。(広報誌「とちぎ」82年7月号より)



**救急医療体制をさらに充実**

栃木県救命救急センターが五月十一日から診療を開始した。同センターは脳卒中や心筋梗塞、頭部外傷などで生命の危機を伴う救急患者に対し二十四時間体制で処置を行う三次救急医療施設。県は五十三(一九七八)年度から一次、二次の医療機関の整備を進めていたが、昨年にはこれらの機関を結ぶ情報システムが完成、さらに同センターのオープンで救急医療体制はほぼ整ったといえる。(広報誌「とちぎ」81年1月号より)

**伸びゆく  
栃木**

**伸びる幹線道路**



**新4号国道  
50号バイパス  
建設すすむ**

新4号は、59(一九八四)年度内に2車線で開通の予定。宇都宮の瑞穂野団地付近の約2キロは、モデル地区として4車線になっている。

(広報誌「とちぎ」82年11月号より)

**特色ある学校づくり**



**教育にゆとり**

**益子高校**

「ゆとりある学校生活」をめざす益子高校(現栃木県立益子芳星高校)では教科のなかに益子焼を製作する陶芸や染色デザインなど10項目の実習テーマを取り入れている。(広報誌「とちぎ」81年3月号より)

# 日本で最も美しい村・小砂

小砂 Village 協議会会長 藤田 清さん  
(那珂川町)



杉林に設けられた「小砂里山の芸術の森」。里山整備と、アート表現。地元の人と都会の学生と、双方の利益が一致し実現しました

## 栃木県初の「最も美しい村」

栃木県北部、那珂川町にある小さな山里、小砂地区が、このほど「日本で最も美しい村」連合に正式加盟しました。同連合は、フランスの素朴で美しい村を厳選して紹介するという「フランスの最も美しい村」をモデルに、日本の農山漁村の景観・文化を守り「最も美しい村」としての自立を目指すとうと、05年に北海道美瑛町など7市町でスタートしました。同連合加盟には、審査員による現地調査など厳格な資格審査があるほか、5年ごとに運動が継承されているかなどの再審査があります。小砂地区の認定で連合加盟は全国54か所に、栃木県内では唯一です。

## 里山に豊富な地域資源

小砂地区は、関東屈指の清流・那珂川の東側にある人口800人ほどの小さな集落。緑豊かな里山に田園風景が広がっています。ここは縄文土器が数多く出土する地、焼き物の里、温泉地として広く知られ、歴史的建造物も点在しています。

「外から来た人はみんな、小砂はいい所だと言っていますが、何がいいんだか、気がつきませんよね。住んでいる人には」と、当時行政区長として連合加盟を推進してきた藤田清さん。現在は「小砂 Village 協議会」の会長を務めています。

「日本で最も美しい村」協議会加盟のきっかけは、都会から小砂に移り住んだ大熊真雄さんからの提案でした。大熊さんは、海外生活が長く、フランスをはじめ海外の美しい山里をたくさん見てきました。小砂地域にも「フランスの最も美しい村」のような魅力があると「日本で最も美しい村」連合会加盟を勧めました。「小砂には、陶芸家や彫刻家などたくさんさんの芸術家に移り住んでいます。また、地域の炭焼き名人小滝真雄さんが焼く炭は、木口に美しい放射状の菊の文様をつくることから、菊炭」として全国の茶道家に愛用されています。茶道が芸術ならその炭もまた芸術。地域の人たちの多くが『日本で最も美しい村』加盟への取り組みを通じて、小砂の魅力を改めて認識しました」と藤田さんは言います。

## 三位一体で地域を元気に

この地域資源をうまく活用できないだろうか。藤田さんは、この里に若者呼び込み、大胆にも現代アートの森にしようと考えました。昨年5月、那珂川の下流に位置する茨城県那珂湊市で毎年アート展を開催している小佐原孝幸さんの協力で「小砂環境芸術祭」を開催しました。芸術祭の大賞受賞作品は、美術大学の学生たちが1か月以上地域に滞在して制作した彫刻群。杉林の間伐を利用して、都会の人々を林の中に再現しました。協議会ではこの森を核に地域資源を有効に活用し、地域づくりを進めることにしています。

「学生のパワーはすごいね。われわれ地域の老人だけでは、いくら話し合っても、行動に結びつかないんです。活性化のキーワードは、よそ者・若者・ばか者と言われます。第三者の視点を持った、よそ者、行動力のある、若者、そして一生懸命に打ち込める、ばか者」とが三位一体となって、地域の活性化を実現し、継承してゆきたい」と藤田さん。



小砂の田園風景



薪の壁もまたアート



菊炭



彫刻を制作する美大生



作品を自然の中に展示

# スカイベリー



大粒で、きれいな円すい型、甘みと酸味の絶妙なバランス。「いちご王国とちぎ」から新しいいちごが誕生しました。その名は「スカイベリー」。大きさ、美しさ、おいしさのすべてが天空に届くような素晴らしいいちごという意味が込められ、栃木県にある百名山（深田久弥著「日本百名山」）のひとつ「皇海山（すかいさん）」（日光市）にもちなんでいます。「スカイベリー」は、栃木県が全国で初めて設置した「いちご研究所」で、17年の歳月をかけて開発しました。「大粒で甘く、しかも栽培しやすい」いちご

を目指して、10万を超えるの株の中から新品種「栃木i27号」を選抜し、2011年に農林水産省に品種登録を出願しました。

名称は全国から応募のあった4388点の中から「スカイベリー」に決定し、2012年に商標登録されました。

スカイベリーは「とちおとめ」に比べて収穫量が多く、病気に強いというえ、25g以上の大粒果実発生割合が6割を超えるなど、栽培上でも優れた特徴をもっています。現在、県内の約100戸の農家が試験栽培中で、2014年12月から本格的な出荷が始まります。

## フォトとちぎ 2014年 冬号

2014年1月1日発行 発行責任 栃木県広報課 編集発行 栃木県広報協会  
〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田1-1-20 ☎028-623-2191

「フォトとちぎ」休刊のお知らせ 「フォトとちぎ」は今号をもって休刊となります。長年のご愛読ありがとうございました